

がんの治療中には皮膚もさまざまな表情を見せます。
そのなかでも見逃してはいけない重症薬疹や
それに準じる皮膚障害には注意が必要です。
とはいえ、皮膚障害の鑑別は専門の皮膚科医でも難しい……。
また皮膚障害を認めたとしても、
薬物療法を続けていいのか？ それとも中断すべきか？
その判断は現場の治療医が苦勞させられる問題です。
「臨床で注意すべき`危険な、皮膚障害の診かたと考えかた」を
皮膚科専門医がレクチャー。
これであなたも皮膚障害の困りごとから解放されます！

特集 1

皮膚科専門医が教える！ がん治療に伴う`危険

企画・執筆 宇原 久 (札幌医科大学医学部 皮膚科学講座)





The first part

皮膚科専門医が教える 危険な皮疹の見分けかた.....28頁

CTCAE Gradeにおける皮疹の重症度を皮膚科医として見てみる.....30頁

- ・紫斑(出血斑).....32頁
- ・斑状丘疹状皮疹.....33頁
- ・皮膚潰瘍.....34頁
- ・蕁麻疹.....35頁
- ・水疱.....36頁
- ・皮膚の乾燥.....37頁
- ・多形(滲出性)紅斑.....38頁
- ・紅皮症.....39頁
- ・スティーヴンス・ジョンソン症候群／中毒性表皮壊死症.....40頁

薬疹の原因検索——皮膚科での問診.....42頁

パターンで考える薬剤中止と再投与.....44頁

コラム「不健康サンダルによる足の角化」.....45頁

な、皮膚障害の 診かたと考えかた

The latter part

症例で学ぶ危険な皮膚障害の 診かたと考えかた

- case 1 水疱.....46頁
- case 2 多形(滲出性)紅斑.....48頁
- case 3 免疫チェックポイント阻害薬による皮膚障害.....50頁
- case 4 皮膚の乾燥とスキンケア.....52頁

